

令和 8 年度学校経営計画

学 校 名 東広島市立河内小学校

校 長 名 大星 篤志

I 学校の状況

学級数	8	児童・生徒数	58	教職員数	●●
メールアドレス	kochi-sho@city.higashihiroshima.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.city.higashihiroshima.lg.jp/school/kochi_sho/				

II 教育目標

「夢と志」をもち、未来に向かって果敢に挑戦する児童の育成  
～和気・本気・根気・元気～

III 経営理念（ミッション・ビジョン）

令和 8 年度 河内小スローガン「はなす・きく・ひろがる学校」

■ミッション

小中一貫の特色を生かした教育活動を展開し、自分のよさをいかし、地域に根差し、主体的に学ぶ児童を育てる

■ビジョン（心理的安全性を基盤）

【目指す学校像】児童も教職員も地域・保護者も来るのが楽しい学校  
～河内まるごとキャンパス～

【目指す児童像】つながる学び、ひろがる学び

～3つの力：大切にする 思いをつなぐ 自分で選ぶ～

【目指す教職員像】目標を共有し、笑顔で子供に寄り添い、かかわりきる教職員

誠意：やさしさと厳しさ 熱意：行動力と責任感 創意：学ぶ楽しさ

#### IV 中期経営目標及び短期経営目標

項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目
【知】 確かな学力	1	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	★知識・技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着の取組</li> <li>(1) マススキタイム等の活用</li> <li>(2) 諸テスト結果の分析と指導</li> <li>○計画的・継続的な学習習慣の定着</li> <li>・家庭学習をやりとげる</li> </ul>	
			単元を貫く問いに向けた、効果的な話し合い活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○問いを創る授業の実践</li> <li>○学びの見える化</li> <li>(1) 学習リーダーによる学習の進行スタイルやガイド学習の充実</li> <li>(2) 視覚的支援の充実</li> <li>・授業の流れが一目でわかる提示（スライドや板書）の工夫</li> <li>(3) 効果的な話し合い活動の充実</li> <li>・協働的な学び</li> <li>(4) ICTの効果的な活用</li> <li>・個や全体に応じた指導の充実</li> <li>・基礎的事項の徹底</li> <li>(タブレットドリル・小テスト)</li> </ul>	
【徳】 豊かな心	2	自他尊重と、豊かな感性と思いやりの心をもつ児童の育成	★相手を大切にす礼儀・マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○みんなとつながる力をのばす</li> <li>(かたじけない・みっともない・もったいない)</li> <li>(1) 自己効力感や自己有用感の育成</li> <li>・ありがとうの言葉かけ</li> <li>・童謡一人歌いの意図的な場の設定</li> <li>・よりよい人間関係づくり</li> <li>(異学年集団活動の充実：小中合同)</li> <li>(2) 東広島スタンダードの習慣化【小中一貫】</li> <li>・あいさつ名人の実施（表彰者掲示）</li> <li>・強調月間の実施</li> </ul>	
【体】 健やかな体	3	基本的生活習慣の定着や健康で安心・安全に生活を送る力の育成	★学習姿勢の意識化	<ul style="list-style-type: none"> <li>○基本的生活習慣の定着【小中一貫】</li> <li>(1) 生活リズムの定着(起床 就寝 食事)</li> <li>(2) 姿勢強化週間の実施</li> <li>(3) 健康保持等の保健指導の充実</li> <li>(4) ノーメディアデーの設定と保護者への啓発</li> <li>○体力の向上</li> <li>・年間を通してのサーキットトレーニング</li> <li>朝マラソン、縄跳びの実施</li> </ul>	
【信頼】 信頼される学校	3	教職員の意識醸成と児童と向き合う時間の確保	コミュニティースクール(CS)の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域課題の発見と地域貢献</li> <li>(1) 地域学習の充実・地域行事への参画</li> <li>(地域人材を活用した地域探究と情報発信)</li> <li>(2) 小中合同の行事や研究の充実</li> <li>(3) 学校だよりやコミュニティースクールだよりの発行（月1回）</li> <li>(4) 学校運営協議会の活用</li> <li>(5) 積極的な情報発信（HPや校内掲示板の定期的点検と更新）</li> </ul>	
			働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>○心理的安全性を基盤とした教職員同士の関わり</li> <li>(1) 児童と向き合う時間の確保</li> <li>(2) 対話の重視とチーム力の向上</li> <li>(3) 不祥事防止のための報連相の徹底</li> <li>(4) 業務改善、勤務時間外の在校時間の縮減</li> <li>・校務の効率化（ICTの効果的な活用）と校務分掌内容の見直し</li> <li>・教職員のスケジュール管理の向上</li> <li>・自己の定時退校の励行とワークライフバランスの促進</li> </ul>	

## V 学校評価

### 1 学校評価システムの組織（構成者を含む）

企画委員会（校長・教頭・各主任）で内容や方法を検討し、年3回学校運営協議会を実施する。

### 2 自己評価および学校運営協議会での評価の実施計画



